

故郷に想いをよせながら

2013
2/17日

13:30~16:00

参加費
無料

●会場●

福島大学 (M21教室)

「郷土に想いを寄せる同窓会モデル化事業」シンポジウム



東日本大震災および原発事故により多くの子どもたちが避難を強いられ、それまであたりまえのように関わっていた「ひと・もの・こと」とふれ合うことができなくなりました。

避難している子どもたちが再会する場は各地方自治体主催により提供されています。本センターでは、「再会の場」としてだけでなく、「子どもたちが主体的に活動する場」「子どもたちが自分らしさを取り戻す場」となるような事業の展開が必要と考え、浪江町津島地区、川内村の子ども達を対象に「郷土に想いをよせる同窓会」を実施しました。

本会では、「郷土に想いをよせる同窓会」参加者からの報告をもとに、同窓会事業のモデル化を目指した今後の展望について考えていきたいと思ひます。



1 部 同窓会事業の概要説明・記録映像 (DVD) の視聴

- ① 報告 ~それぞれの立場から~
- ② 新たな展開に向けて

2 部 被災地の子ども達にとって
「故郷に想いをよせる」とは
（「同窓会事業の展開と展望」）

発表者 大原 政宏 (浪江町立津島小学校長)
栢田 祐子 (浪江町立津島中学校長)
遠藤 清輝 (川内村教育委員会教育総務係長)
大山 浩志 (川内村教育課生涯学習係)
御代田桜子 (福島大学学生ボランティア)

コーディネーター 本多 環 (福島大学うつくしまふくしま未来支援センター)

FURE

福島大学

うつくしまふくしま未来支援センター
Fukushima Future Center for Regional Revitalization

主催

「故郷に想いを寄せる同窓会」運営委員会・福島大学うつくしまふくしま未来支援センター

協力

浪江町教育委員会・川内村教育委員会・三菱UFJニコス株式会社・株式会社ニコソ
堀下さゆり(シンガーソングライター)

FAX参加申込書

福島大学つくしまふくしま未来支援センター（「郷土に想いを寄せる同窓会」運営委員会）

Tel/Fax 024-504-2865 E-mail fure@adb.fukushima-u.ac.jp

フリガナ		参加人数	名
氏名 (代表者)			
連絡先 電話番号		勤務先	

※平成25年2月14日(木)までに、FAXまたはE-mailでお申込みください。

※連絡先電話番号は、申込みが会場の定員を超過した場合にのみ使用いたします。

※この名簿の記載事項は標記事業の参加者把握にのみ使用し、その管理は十分に留意いたします。

会場のご案内



国立大学法人 福島大学

〒960-1296 福島県福島市金谷川1番地
(JR東北本線「金谷川駅」下車 徒歩8分)

実施した同窓会事業の概要

■浪江町津島地区の部

第1回は、震災当時の浪江町津島地区の児童生徒、その保護者を対象として、2012年10月6日・7日に国立那須甲子青少年自然の家で実施。小中学生28名と保護者、地域住民の方々、津島小・中学校の教諭ら合わせて59名が参加しました。開会式では元気な声で懐かしい校歌を斉唱し、その後、地元の伝統民俗芸能「田植え踊り」「三匹獅子舞」の映像を見たり、地元の人に教わりながら花御輿に飾る「ささら」（造花）作りを体験したりしました。2日目は、子どもたちの「新しいお祭りをつくりたい」という想いのもと、御神輿と巨大うちわづくりに挑戦しました。御神輿には「津島に早く戻りたい」といった短冊がはられており、保護者や学校関係者が涙する場面もありました。参加者から「この1年、あまり連絡を取ることができなかったけど、津島での思い出や今の状況を話すことができ、絆を再認識した。」との感想も聞かれ、とても有意義な時間を過ごすことができました。

■川内村の部

第2回は、震災当時の川内村の児童生徒、その保護者を対象として、2012年11月17日・18日に国立磐梯青少年交流の家で実施。小中学生33名と保護者、地域住民の方々合わせて51名が参加しました。村の様子の映像や、地元の方々による伝統芸能、子どもたちによる「三匹獅子」の披露などを通して、村の魅力をあらためて理解しました。夕食の後は、古くから伝わる「川内甚句」や「BON・DANCE」を踊るなどして川内村のお祭りを楽しみました。最初は関心がなさそうだった子どもも、しだいに積極的に活動する姿が見られ、帰るときには見違えるような笑顔を見せてくれました。閉会式には、同窓会事業のテーマソング「この街に咲く花のように」を歌う堀下さゆりさん（相馬市出身）がサプライズゲストとして訪れ、参加者と一緒にテーマソングを歌いました。